『新たな中学校に関する対話集会』　会議録

１　日　時　　令和４年１０月１３日(木)　午後７時～午後８時４０分
２　場　所　　富士川町民会館
３　出席者　　望月町長、古屋教育長、秋山職務代理者、中村教育委員、大森教育委員、保坂教育委員、中込教育総務課長、齋藤中学校統合準備室長、志村総務学校担当リーダー、乙黒中学統合準備担当、石部総務学校担当
　　参加者：109 名
４　資　料　　別紙のとおり
５　内　容
① 開会　教育総務課長
② 教育長挨拶

皆さんこんばんは。教育長の古屋三千雄と申します。

本日は、1日のお仕事のお疲れのところ、中学校統合に関する対話集会へご参集いただき、心より感謝申し上げます。また、日頃より本町の教育に対して深いご理解と温かいご支援を賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。

これまでずっと頭を悩ませてきた新型コロナウイルスですが、やっと少しは沈静化してきたというものの、まだまだ楽観視はできないと考えております。その様な中での対話集会ですので、皆様にも感染予防対策にご協力いただいたなかでの開催ですが、よろしくお願いします。

さて、中学校の統合につきましては、本年６月に増穂中学校、鰍沢中学校、そして増穂小学校の各体育館で３日間をかけまして、保護者の皆様や各校の先生方、町民の皆様、そして町議会の議員の皆様にお集りいただき、対話集会を開催して参りました。その結果、７月１３日の総合教育会議において、統合の必要性、つまり適正化基本方針に示されている「中学校においては、多様な人間関係を築きながら切磋琢磨し、協調性や社会性を育む機会が確保された教育環境の整備の必要性」。このことにつきまして、多くの皆様に共感いただけたとの判断から、中学校の統合を進めていくことを決定し、統合の時期や新しい校舎の場所につきまして、再度アンケートを取らせていただくこととしました。

そして皆さんから寄せられた意向やご意見をまとめたアンケートの結果を踏まえ、９月２６日の定例教育委員会、そして１０月３日の総合教育会議で協議し、本日お示しする原案を策定致しました。原案では、中学校においては、生徒たちに教科等の知識や技術を習得させるためだけでなく、生徒一人一人が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することなどの経験が大切となる。そして、その経験や体験をとおして、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に着けることの大切さが重要であるとの考えから、焦らず、統合に関する諸準備を行う期間も保ち

ながら、できるだけ早期に統合できる時期を設定させていただいたところでございます。

また、校舎につきましては、教育委員会として、校舎の新築を町長に要請いたしましたところ、望月町長は、アンケートの集計結果にも表れている保護者や先生方の校舎新築への熱き思いや、前回の対話集会での夢ある統合への町民の皆様の願い、更には、町議会からの提言も受けて、総合教育会議の開催以前に校舎新築の決断を下していただきました。

校舎の新築という望月町長の決断につきましては、皆様にアンケートを記入していただく時点では表明をされていない、新たな状況でもありますので、本日は校舎新築という望月町長の新たな提言をもとに、新中学校開校の時期や新校舎の建設場所等につきまして、皆さんのご意見をたくさん聞かせていただけたら幸いです。

なんにいたしましても、町の将来と夢を担う大事な子どもたちの将来に関わる大切な話し合いです。皆様方のあたたかなご支援とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

③町長挨拶

みなさん、こんばんは。ご紹介いただきました富士川町長の望月利樹でございます。本日は夜遅く、仕事の後のお疲れのところにも関わらず、このようにたくさんのみなさんに、この富士川町の未来の子供たち、この子供たちの教育環境をどういう風にしていったらいいんだというこの熱い思いをもった方々に、集まっていただきました。まさに、教育というのは、これから５０年先、１００年先、この町の礎を作る大事な、大事なものでございます。その子どもたちを育てる環境をみんなで議論して対話をして、そして全員の声で積み上げていこう、そういう風に私が今回思って、これまで就任以来、こういう対話集会というようなことを繰り返して民意を確認してきたところでございます。その間、皆さんの声、アンケート調査、そして、議会、教育委員会での意見をいただきまして、先ほど教育長におっしゃっていただいたように、新築の校舎を造っていこうということで判断をさせていただきました。やはり子どもたちの教育環境、これはこの富士川町の子どもをどう育てるのか、どういうコンセプトでやっていくのか、中学年代の子どもたちにどういう場を与えていくのかというビジョンがあった後に、建物、教育環境を作っていくということをやらなければならないと、強く感じたところです。

財源が心配だと言われた、もちろん私も財源が心配です。そこのところも町の財政課と様々な補助金等を活用しながら、財政的にも何とかなるという数字が出てまいりました。そして、今後７大事業の一つと言われる体育館、これもセットにして考えて、財政的な部分も何とか抑えていこうと言いますか、子どもたちの教育環境にウエイトをもっていこうという考えの下、新築ということで決定いたしました。これまで様々な議論をしていただいた積み重ねがあります。さらに次の一歩、今日提案もありますが、場所についてということが一番大きな議論になってくると思います。時期と場所、そして新築という部分、ここについて皆様の忌憚のないご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。

全ての政策は町民のみなさんの声から、政策は立案するもの。トップダウンでするものではないという信念の下、実りの多い会になることをご期待申し上げて、甚だ楚辞ではありますが、私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。

本日は、未来の子供たちのためによろしくお願いします。

④教育委員紹介

⑤説明事項　　齋藤室長

・これまでの経過
・アンケート結果の概要について
・新たな中学校の方針（案）について

まず、経過について説明します。今回の経過につきましては、前回の対話集会以降の経過についての説明になります。　６月２１日、２３日、３０日に増穂中学校、鰍沢中学校、増穂小学校で「中学校統合に関する対話集会」を開催しました。この対話集会では、統合についてのご意見を数多くいただきました。

７月１３日に開催された総合教育会議において「中学校統合」について協議を行い、これまでのアンケート結果や対話集会での意見を踏まえまして、統合については概ね理解を得られたのではないかとの判断から、「中学校の統合を進めていく」ことの決定をしました。

総合教育会議での決定を受けて、８月下旬に「新たな中学校に関するアンケート」を実施しました。このアンケートは、３月に実施した１回目と同じ、小学校５年生から中学校３年生までの児童生徒、全児童生徒の保護者、教職員を対象に実施したものです。アンケート結果の概要については後ほど説明します。

９月２２日には、町議会から、町及び教育委員会に「新たな中学校開校に向けた提言書」が提出されました。

９月２６日の教育委員会定例会において、３回目のアンケート結果を報告、町議会からの提言書について報告をするとともに、「新たな中学校の方針の教育委員会事務局の素案」について協議し、教育委員会としての案をまとめたところです。

１０月３日の総合教育会議において、この「教育委員会の案」について協議をいたしまして、「町の方針の案」を決定しました。そして本日、この「町の方針の案」について、ご参加いただきました町民の皆様のご意見をお聴きするため、対話集会を開催しました。

次に、８月下旬に実施した、新たな中学校に関するアンケート結果について説明します。まず、児童生徒向けのアンケートの結果ですが、資料の表面の右側をご覧ください。児童

生徒については、統合の時期、新たな学校の場所、施設について、それぞれの設問を用意しました。

「中学校が１つになる時期はいつごろがいいと思いますか」という設問では、「なるべく早く統合したほうがいい」「少し時間をおいて統合したほうがいい」「わからない」この回答がほぼ３割ずつという結果となりました。ただ若干「なるべく早く統合したほうがいい」と答えた児童生徒が少なく、３割を下回っているという状況です。こちらの理由については、新しい友達と早く仲良くなりたい。新しい生活に早く慣れたい。コロナが落ち着いてから。ちゃんと準備をしてから。いつ統合しても大丈夫。仲良くできるかわからない。といった回答でした。

「新しい中学校の場所はどこがいいと思いますか」という設問では、「いまの増穂中学校がある場所」と答えた児童生徒が４割という結果になりました。ただし、３割の児童生徒が「わからない」と答えています。理由については　ちょうど中間でいい場所。どちらかの学校に寄せると不公平。地域の人と会って安心。利便性がいい。どちらでもいい。といった回答でありました。

「新しい中学校はどんなものがいいと思いますか」という設問では、「今ある校舎を直して、きれいにして使ったほうがいい」、「新しい校舎がいい」と答えた児童生徒が４割ずつ占める結果となりました。理由については、時間とお金がかかるから。統合が遅くなるから。気持ちよく学校生活を送りたい。違う環境になるから新しい校舎に。といった回答がありました。

続きまして、保護者・教職員向けのアンケート結果です。資料の裏面の左側をご覧ください。保護者・教職員につきましては、統合の時期、新たな学校の場所、施設についての内容を組み合わせまして、「新たな中学校はどのような形での設置がよいと思いますか」という設問を用意しました。資料の表で①から④までが、「なるべく早い時期に統合する」⑤から⑥までが「新校舎を建設し、完成したら統合する」という分類になっております。最も多かった回答は、⑤番の「新たな中学校の位置は増穂商業高校跡地で、校舎を建築し完成した時点で統合する」というもので、回答者の４割を超える結果となりました。続いて、⑥番の「新たな中学校の位置は現増穂中学校敷地で、校舎を建築し完成した時点で統合する」で、やはり４割に近い結果となりました。この⑤と⑥の「新校舎を建設し完成した時点で統合する」が８０％を超える結果となりました。理由については資料にもあるとおり、時期、場所、学校の施設についてそれぞれ多くの理由が寄せられています。今回は、抜粋して説明をさせていただきましたが、アンケート結果につきましては、ホームページで詳細を公開しています。ホームページでは、設問に対する回答のほか、地区別や学校別など、色々な角度からの集計も掲載しています。お時間があるときにぜひご覧ください。なお、今日説明したアンケート結果については、広報に掲載し、町民の皆様にお知らせをします。

最後に、「新たな中学校の方針（案）」について説明します。資料の裏面の右側をご覧く

ださい。この方針の案につきましては、第２次学校規模適正化基本方針、これまでの経緯、対話集会、アンケート結果等を踏まえて、教育委員会事務局の素案を基に、教育委員会定例会、総合教育会議で協議し、決定したものです。

まず、設置の理由ですが、「富士川町の全ての生徒が、多様な人間関係を築きながら切磋琢磨し、協調性や社会性を育む機会が得られるよう、教育環境を整備する必要があるため」であります。これは、第２次学校規模適正化基本方針において示されているものです。現在、人口の減少により、生徒の減少が進んでおります。増穂中学校、鰍沢中学校ということでなく、富士川町の全ての生徒に同じ教育環境で学べる、そういった環境を整備することが必要であると考えています。

次に、設置の方法ですが、「増穂中学校と鰍沢中学校を統合し、両校の歴史や伝統を併せ持つ新たな中学校を設置」します。これも、第２次学校規模適正化基本方針で示されたとおりです。どちらかの学校の生徒になる、ということではなく、２つの学校を合わせた、両校の歴史や伝統を引き継いだ、新しい中学校を設置します。

次に、設置の場所ですが、増穂商業高校跡地または現増穂中学校敷地の２箇所を案として決定しました。この案については、教育委員会定例会、総合教育会議で協議した結果、設置する場所については、現段階で１つに絞らず２つの候補を案として示し、今回の対話集会での意見を踏まえた上で、最終的に決定したいと考えたためです。

次に、開校時期ですが、「令和７年４月に新たな中学校を設置」します。教育委員会としては、なるべく早い時期の統合が望ましいと考えております。しかしながら、新たな中学校を開校させるまでには、時間をかけて調整や生徒の交流を行っていきたいと考えております。また、令和７年度には、新中学１年生は、増穂中学校においては６０人弱、富士川町全体でも７０人程に減少する予想であります。次の１年生は生徒数がもち直しますが、その後、生徒数は減少が続きます。こうしたことから、令和７年４月の開校としたところです。令和５年度と令和６年度の２年かけて、統合に向けて調整や交流を実施していきます。

最後に、校舎等施設についてですが、「令和５年度から新校舎の建設事業に着手し、令和９年度夏季休業中の移転」を目指します。「開校から新校舎への移転までは、増穂中学校を仮の校舎」とします。建設事業については、令和５年度と６年度に設計を行い、令和７年度と令和８年度に工事を実施したいと考えています。仮の校舎から新校舎への移転は、生徒や教職員の負担が少なく、教育活動の妨げにならない時期が望ましいという観点から、夏季休業中と設定しました。また、仮の校舎については、ある程度の環境が整っており、あまり費用をかけずに運用できるため、増穂中学校としました。以上が新たな中学校の方針の案となります。この対話集会でのご意見を踏まえて、１１月４日に開催予定の総合教育会議において、方針を決定したいと考えております。

⑥対話

事務局：

これまでの経過、アンケート調査の結果、新たな中学校の方針の案について説明が終わりました。ここで次第にあります、対話に移ります。ただいまの説明につきまして、ご意見等がありましたら、お名前と地区名を言っていただき、挙手にてお願いします。時間が限られていますので、簡潔にご発言くださいますようお願いします。それではご意見ございませんか。

町民（長澤区）：

私は中学校の統合の説明会、3回あったうちの2回に出席しました。そのときの感想では、すぐにでも統合するという話だと思ったのです。それが急に違う方向に教育委員会として変更したわけですが、その一番の理由をまず教えていただきたい。

事務局：

なぜ、すぐにでも統合というところが、令和7年4月になったかというところの質問でよろしいかと思いますが、こちらにつきましては、先ほど資料を基に説明をさせていただきましたとおり、開校時期についての質問になりますが、教育委員会としてはなるべく早い時期が良いと思っておりますが、新たな中学校を開校するまでには、時間をかけて調整をする必要があります。児童生徒間の交流も深める必要があると思っています。それと令和7年度に、増穂中学校も６０名、富士川町全体でも７０名ほどと、大幅に児童生徒の人数が減ってきます。こうしたことから、令和7年。2か年かけて調整・交流をして、この時点がいいのではないかと考えたところであります。

町民（長澤区）：

では、続いて質問をさせていただきますが、1月頃増穂商業高校を改築する、リフォームなのか、新しい校舎を建てるのか、ちょっと意味が不明なのですが、入札をかけましたね。その時はどういう目的で入札をしたのでしょうか。それを教えていただきたい。最初、増穂商業高校の校舎をリフォームするということで、入札をしたのか。増穂商業のところに新築する校舎を造るということで入札をしたのか。それ説明をお願いします。

事務局：

その当時については令和5年4月の開校、増穂商業高校の校舎を利用して、新しい中学校を設置するという方針で進んでいました。そのことから、その時点では増穂商業高校の校舎の改修ということで、入札をしております

町民（長澤区）：

人口が減るということを先ほどからおっしゃっていますが、私が調べたところ、2025年0歳児から4歳児までが男女で 339 人、4歳児から9歳児が 407 人、14 歳児までが464 人。それが 2045 年には 0 歳児から 4 歳児までが 193 人、4歳児から9歳児が 239人、10 歳児から 14 歳児が 270 人と予想されています。これは国立社会保障人口問題研究所の資料で、出ています。そうすると今の時点で校舎を造ると、２０年後にはかなりの教室が余ってくるという計算になります。その辺りを町の方ではどのように考えているのか教えていただきたいです。

事務局：

今回の方針案、みなさんの意見を聞きながらその内容を踏まえ、11 月 4 日の日に最終決定していこうと考えております。その後の予定になりますが、令和5年度、6年度にかけ、設計を行っていく考えです。特に令和5年度におきましては、基本設計となります。どのような学校の規模、内容から、そういったものを全部含めまして考えていきたいと思います。その中で、子どもの数が減っていることも含めながら、それでも教室の規模がどのくらいの数がいいのか。いま現在は中学校のクラスは３５人で一学級という形になっています。山梨県は全国に先駆けて知事がこの人数を少なくするような形で進んでおり、小学校でも２５人学級というのが進んでいますので、その辺も全体を考えていきながら、教室数についても資料を検討しながら進めていきたいと考えています。

町民（長澤区）：

建設場所ですが、私は増穂中学校のところが良いと思います。長澤新町、竹重、沓米の北の端から、増穂商業高校まで雨の日、風の日、雪の日、台風の日、歩いて通うとなったら、大変なことだと思います。いまの増穂中学校だったら、みんないまの状態で通えます。平林の人、小室の人もスクールバス。鰍沢の人もスクールバス。ほかの人は歩いて通っていますので、それが一番私は良いと思っています。増穂商業まで新町の端、竹重の端、沓米の端から、雨の日雪の日台風の日もずっと歩いて通うなら、距離が倍以上になります。そうするとやはり増穂中学校になって、ほかの地域の人にはスクールバスで通っていただくと。いまでもたぶん鰍沢の方面からスクールバスで通っている人もいるだろうと思うし、穂積区の人も、平林の人もスクールバスで通っているのではないかと、私は子どもがいませんが、想像しています。そうじゃないかと。だからそれが増穂中学校のところが一番いいと私も思いますが、新校舎を造るとなると、当然、旧校舎を壊すわけですから、プレハブか何かの建物を建てなきゃだめです。そうすると、グラウンドがなくなります。工事期間中、グラウンドをどういう風に利用するのか。その辺りはどのように考えていますか。

事務局：

まず、増穂中学校をということで仮定をしまして、ご意見をいただきました。校舎の建築する場所、この部分につきましては先ほどの説明と同じになりますが、基本設計をしていく中で、どういう方策が一番いいのか。どの位置が一番いいのか。どうすれば子供たちに影響が少ないのか。そういった部分を考えながら検討をしていきたいと考えています。

それから増穂中学校がいいというご意見ですので、そちらにつきましては、ご意見をありがたくいただきます。ありがとうございます。

町民（長澤区）：

私ばかり長くなって申し訳ありませんが、再質問です。保育所の統合の問題もありました。保育所も子どもが減っていて統合しないとだめ。そうすると、小学校も統合という話が当然出てこないとおかしいと思います。中学校も統合。私は、この３つを総合的に考えていくことが大切なのではとこの頃思っています。本当は大きい敷地があれば、一か所に集中させてしまえば、それが一番いいのです。通うにも、スクールバスでも一か所にあれば、そこに行けば済みます。だけど、そんな大きな土地が現状ではないんですよね。あれば、保育所もある、小学校もある、中学校もある。三つが大きい敷地の中にあれば、そうすればそれが町にとって一番いいと。自分の勝手な思いですが、そう思っていることをお伝えして、最後の質問とさせていただきます。

事務局：

ご意見ありがとうございました。最後の質問という形で、今後の方向として、中学校だけでなく、小学校も含めながらのことも考えていけばいいじゃないかということに対しての回答ということでよろしいでしょうか。

町民（長澤区）：

その回答はいいです。無理だと思うから。ただ、そういう考えもあるということを頭に入れておいてもらえばいいです。

事務局：

ご意見として承ります。ありがとうございました。

町民（大椚区）：

いまほかの方からご意見があって、それに付け加えさせていただきたいと思います。竹重とか小林とかの話が出ましたが、長澤とか大椚辺りもおそらく同じような考えだと思います。いま小学生を持つ親御さんたちが増穂商業高校まで通うとなると、当然自転車じゃなきゃだめだと。前に対話集会を３回やりました。自転車も検討します、という事務局

からの説明もありましたが、これはもう検討どころの話じゃなくて当然のことです。甲西中とか、櫛中とかもそうですが、もっとずっと懐の広い市町村でも当然やっていることですし、富士川町はいまの状況ではみんな歩いて通える。部活か何かで、日曜祭日は例外的に自転車を認めているようですが。私も先ほどの方と同じで、いまの中学校の跡地の方がいいという意見ですが、独自の意見として、この問題は町全体で慎重に、もっと議論を尽くしてやるべきだと思います。長岡の米百俵じゃないですが、いま例えば富士川町の町政の発展、ゆるやかだけど、動いていると思います。人口の中心軸というのは、合併したから当然南の方にずれましたが、やはりこれからは北の方に長い先向かっていくと。そういう中で、ひょっとして増穂商業高校の跡地に建ててしまうと、１００年の計を見誤るのではないかと、そんな気がしています。

アンケートなども今回保護者とか学生だけでしたが、本当は幼稚園以下の子どもを持っている父兄とかもっと広く聴いたりする必要があると思います。生徒の方は現在の跡地という答えが圧倒的に多いのですが、父兄とか、教職員の場合はまた違っているようです。いずれにしても意見が割れている中で、今後 11 月に決めるようなことをおっしゃっていたり、新聞にもそんなことが出ています。果たしてどういう形で結論を出すのか。今日の意見もいまのところ私も含めて現在の跡地（増穂中学校）の意見ですが、おそらく反対の意見の方も大勢いらっしゃる。だからこれはこの先意見が割れるのであれば、地区の集会も開いて、細かいところまで意見を広げてもいい。そういう必要があるのかなと。

一回目の時に、町長が教育の問題は財政ありきじゃなくて、教育のこと先に考えるということをおっしゃっていたが、まさしくそういうことであって、非常に教育的な視野から見ても、増穂商業高校の跡地というのはどうかと、私はそういう意見です。

地元としては、ホームページに地区別のものも出るようですが、大椚やその近辺で聞くと、娘をあんな遠くまで自転車で通わせるとかとんでもない話だとか、そういう意見が結構あって。いずれにしても町全体で今までの色々な経緯があってここに至っていますが、慎重に議論を尽くしていただいた方がいいと思います。

細かい話ですが、例えば不動産で、これから町内で住宅の新築とかそういう関係でも、中学校まで徒歩何分とか、あるいは市川大門の駅まで車で何分とかそういうことも入ってきます。それから、北の方に住んでいる人たちが将来あんなところまで子供を自転車で通わせるのなら、甲府の方へ行かせるとか出てくるかと思います。

いま申し上げたものは数からすると、そんなに目立ったものじゃないかもしれませんが、町の将来の発展ということを考えると、そういった所へも目を向けて、考えていただけたらと思います。

町長：

ありがとうございます。じっくりと意見を重ねろという意見でございました。まさにみなさんの民意はどこかということ。できる限りじっくり進めていきたい、みんなの声を拾

いあげていきたいと思う一方、そうはいってもある一定の時期に決めなければいけない。あまりこういう議論を長引かせてはいけないという思いと、やはり財政的な部分もしっかり勘案しなければならない。

皆さんご承知かどうかわかりませんが、合併推進債というすごく有利なものがあります。そこを活用しないと、この金額では新しく新築はできないのです。それが令和６年までに設計をしなければならないという縛りがあります。それを逆算していくと、私が冒頭から話している秋ごろ、１１月ごろに決定をしていくのが本当にギリギリの線。ですからこの間に皆さんの声を、こういった公の場もそうですし、区長会や無尽の場、様々な場所で私なりに声を聞きました。議会のみなさまも、それぞれのバックボーンの中から様々な話を聞いてこられた。教職員のみなさんも、教育委員のみなさんも聞いてこられた。みなさんこの８か月くらいの間に様々な議論が巻き起こったと思うんです。そこを集中的に集約して、時間的に許されればもっと議論をしたいんですが、ぜひとも後ろが決まっている。財政的な部分も私は町長として考えなくてはいけないということで、ぜひご理解いただきながら、この対話集会で集中審議をしていけたらと思っているところです。

それともう一点、様々な時系列的なことを考えて、１００年の計を見誤るなという、このご意見はしっかりと受け取りたいと思っています。

町民（青柳町区）：

前回の対話集会、3回参加させていただきました。参加する人の数だけ考え方があって、びっくりするような意見もあったりして、非常に勉強になりました。そういう気づきとか、町民に考えるきっかけを与えてくれて、意味のある対話集会だったと思います。

全体の流れで感じているのは、増穂商業高校の跡地に引っ張られているなということ。ひょっとして増穂商業高校が存続していても、果たしてこの中学校統合の話はあったのかどうか。増穂商業高校が廃校になるから、あそこを使っておくか。増穂商業高校の跡地に問題があるから色々考えてしまうのかなという気がします。普通にまっさらな気持ちで考えていただいて、A という中学校があって、B という中学校があって、そしてその二つが統合するという話になったら、まず最初に考えるのは A 中学校か B 中学校どちらか使えないだろうかということを考えると思います。それでもし、不備な点があったり、工事が必要になったら、改修したり、改築したりしてなんとか使えるようにするというのが統合の普通の考え方だと思っています。

やはり私も増穂中学校を利用するべきだと思っていまして、体育館２つはまだ綺麗ですし、プールも使えますし、そして新築にするということであれば、うちの親や 70 代の方は知っていると思いますが、昔はいまのグラウンドの北側に木造の校舎があったそうで、いまの場所に移して造りました。冬場日陰になって、グラウンドが凍ってしまうという難点がありますが、それを踏まえ、またグラウンド北側に校舎を造って、南側にグラウンドを造るというのもありなんじゃないかと思います。

先ほどから出ていますが、増穂中学校にした方がいいもう一つの理由は、自転車通学は絶対やめたほうがいいと思います。巨摩高校では、バイク・自転車の転倒とか接触とかの事故で、年間３０件くらいはそういった報告があります。私は制服に携わる仕事していますが、しょっちゅう自転車で転んだから穴を補修してくれという方が来ます。右ひざに大きく穴をあけた子が、１か月後に左ひざに穴を開けて新しく買い直すなんてこともあります。本当に怖いなと思います。

うちの子も巨摩高校で自転車通学をしていますが、雨が降ったら車で送らなくてはならなりません。そうすると一週間ずっと天気予報を気にしなくてはならなくて、学校に車で送っていくと、大渋滞して、帰りも迎えに行く時間に大渋滞する。いろんな不便な点もあります。

また、中学校時代に自転車を購入するとなると、高校時代も使えるように、ロードタイプでタイヤが大きくて細い自転車をチョイスすると思いますが、そういう自転車に乗って、10 kg以上の重たいリュックを背負ってふらふらしながら登校するというのは、想像できないくらい危険な気がするので、中学校が今の場所なら、鰍沢地区、小室地区、平林地区はバスですが、(その地区以外は) 自転車とバスを使わずに徒歩で行けると思うので、そういう意味からも、いまの増穂中学校の場所がいいと思います。

事務局：

ありがとうございました。ただいま３名の方から増穂中学校という意見が出されましたが、増穂商業高校跡地の方がという意見もあるとは思いますが、ほかに意見等ございませんか。

町民（青柳町区）：

私の意見としては、アンケート結果にもあるとおり、⑤番の増穂商業高校の跡地の方がいいと思っています。増穂中学校に子供がいますので、本音としては現在の増穂中学校のところを利用するのがいいと思っていますが、理由としては３つあります。

１つは町の中点であるということ。鰍沢地区の子どもも通学できますし、増穂地区も通学できるという点。２つ目は増穂商業高校の空き地を利用できるという点。３つ目は仮校舎を造らなくても、既存の中学校を使いながら、建築工事ができるという点を理由にしています。ただ通学圏が遠くなるという点も挙げられていましたので、自転車通学については、全生徒、全区域で認めるべきだと考えています。そこは安全等も考慮しながら、高校へ行っても自転車通学になるのであれば、中学の時点からそういう教育を進めていくべきだと考えています。それと商業高校の跡地とするならば、駐車場も広く作ってもらいたい。駐輪場も広い敷地を取ってもらいたいという意見を挙げさせていただきます。

町民（長澤区）：

いまの増穂中学校を新しい中学校の場所にした方がいいと思います。理由は、町民体育館の建設も視野に入っていると思いますが、町民体育館を造るのにあたって、増穂商業高校の跡地か、増穂中学校の場所かどちらかを選ぶという形になっているかと思いますが、そうなった場合、私、増穂商業に通っていましたが、あそこまで広い土地というのは、たぶんこれから生徒数が減っていくなかで必要ないのではないかと思います。そうなると、増穂商業の跡地に町民体育館を建設すれば、かなり駐車場も広く取れると思う。町民体育館というのは、不特定多数の人が利用すると思うし、駐車場は広く作った方がいいと思います。町民体育館が増穂中学校の跡地とするとだいぶ厳しいのかなと思います。そんなことを踏まえて、私が増穂中学校を新しい中学校の建設場所にした方がいいと思います。

町民（穂積区）：

先に１つ質問があります。アンケートを実施するにあたり、児童向けと保護者・先生向けと限定した理由は何かあるのでしょうか。先ほども出ていましたが、町民全体へのアンケートでなければ、まったく意味がないと思います。このアンケートが私にも送られてきたので、その時に教育委員会へ連絡して、なぜですか、やった方がいいと思いますと伝えましたが、それは何か理由がありますか。

事務局：

今回のアンケートは、1 回目のアンケートを行ったときと同じ児童生徒に送っています。前回は統合についてという形でアンケートをさせていただきました。そして統合については進めていくとことになりましたので、同じ方に次の段階のアンケートをさせていただくという形で、今回の対象者を選びました。

町民向けのアンケートについては、無作為抽出でさせていただいていて、その結果についても広報等で掲載させていただいております。

町民（穂積区）：

今回も、無作為のものがあるのか。前回の統合すべきかすべきじゃないのかのときにやったランダムというものを、なぜ今回はやらなかったのか。

事務局：

今までのアンケートもありますし、対話集会等でもご意見をいただきました。今回こういう形で町民の皆様にもお声がけをしているので、こういう場をもって町民の皆様のご意見をお聴きしたいと考えています。

町民（穂積区）

ここにきている方のランダムな意見ということですが、全員がこのアンケートのように１～６のどれかに当てはまるように手で挙げて、アンケート結果のようにはならない気がします。そこが不自然で、意見を無理矢理まとめているような気がして、アレっと思うことが一点。

このアンケートは、中学校３年生の娘も言っていましたが、私には関係ないよね、と。幼稚園とか、小学校低学年の保護者、児童が直接関係することなのに、そこにはアンケートが届かない。中学生は既に前回のところで、いったん令和５年のことはやめましたと決めたのでまったく関係なくなりますが、そこへのアンケートは意味のないものになるのではないかと思いました。

また先ほど聞きましたが、町長は新校舎を建設するという決断をされています。そこはもう決定しているということですね。改修して増穂中学校をどうにかするということはないということですか。

町　長：

新校舎建築を決定として判断したということですが、要は当初の計画は５億円をかけておよそ１０年程度活用するという計画。増穂商業高校は高校生向けになっています。給食を運ぶ台もすれ違いができなく、トイレの位置もよくない、階段も急ということで、そこを５億円かけても、もう５０年選手なので、１０年くらいしかもたない。それを考えたときに、新築で新しいコンセプトの下、新しいものを造って５０年持たせた方が、コスト的に安くなる。教育的なことをみても、古い校舎を活用して、古いところに子どもたちを入れるよりは、やはり新しい校舎で教育をさせたいという思いの中で、トータルで考えて新築ということを考えました。

そして、積み上げてきた議論の中で、ここでまだ改修というものを残したときに判断が付かないのです。ですから、積み上げてここの議論があったときに、じゃあこれでいこう、これでいいでしょうかと提案させてもらいながら、次々と積み上げて、今日はここにある新たな中学校の方針のとおり、もう開校時期と校舎等というのは、令和９年度の休業中の移転を目指すというのは、我々の提案ということで、これでお願いしますということで、決めた方針ということ。ただ、場所については本当に先ほど来から話があるように、議論が逼迫している。両方に一長一短あるので、これについては、みなさんとしっかり対話をしながら、極力その声を聴きながら、方針を決めていこうということで、決定しました。土台として新築ということを決めないと、こういった集中した議論にならないと考えながら、新築を決めさせていただいたということです。

それぞれのアンケートもしかり、それぞれのフェーズで全体の声を聴くという場面も必要なので、無作為抽出しました。でも全部を無作為抽出するというのも、議論が積みあがっていかない。でもそういう人たちの声はアンケートだけでなく、議会議員のみなさん

とか、区長さんとか、教育委員会とか、学校の先生とかそういったところで吸い上げることができます。ですから、アンケートだけが全て民意を聴くツールということではなくて、一つのツールということで考えていただけたら、と思います。

町民（穂積区）：

私は、いま小学校６年生に娘がいますので、来年中学１年生、２年生、３年生となりますので、この計画で新築をしていくとなると、増穂中学校が工事中に中学校が終わると思うと、かわいそうだなと思います。自分の娘のことだけを考えると、新築するということが決定しているのであれば、増穂商業高校に造っていただいて、いまの中学校で３年間というのが、子どもにとってはいいのかなと思いました。

そして、通学の件ですが、前回の対話集会でも長々自転車通学に関して意見を言わせていただきました。今の段階でも、遠くて暗い中を歩いて帰らなくてはならない子が、少ないですがいます。そこに関しても、自転車通学を可能にできないかとか、もしくはバスをその区域にも通して可能にできるようにしてもらえないかと色々な方面からお願いをしています。

そして自転車通学が危ないという意見が多数あります。話をしていると、自転車はよくないと。事故が多いと。それはどうなのだろうと考えていると、この富士川町が車社会なのです。山梨県全体がそうだと思いますが。自転車を使う人間にとって、とても優しくない町なのです。実は私は自転車に乗っていないので、車側からの立場としてそう思います。

私、穂積区の人間ですが、今回、自転車教室も開催することにしました。ならば、自転車をどのように正しく使うのか、どのようなルールがあるのか、やはりそういうことを町全体で子どもたちに教え、そこの基盤を大きく上げていく必要がある、そこに子どもが増える、自転車教室に関わる大人が増える、そうすると車に乗っている大人から、自転車に乗っている子どもがいるな、危ないな、こういうときはこういう車の運転をしなければならないなという発想に繋がってくるのではないかと思います。自分が教室を開くにあたり、自分が車を運転するときにかなりいろんな視点で道路を見るようになりました。森林総研の辺りから自転車枠のラインが引いてあります。あれは何のために引いてあるのかを考えると、自転車ツーリングのためじゃないかなと思って、町はそういうことにはラインを引いたりするけれども、小中学生に対しての優しさや配慮は見せていただけないものかと強く思います。そういうことが整備されれば自転車通学も全員に対して、どの地区がとかじゃなく、先ほどもご意見ありましたが、自転車駐輪場や駐車場の件も、バスももうちょっと時間の範囲を狭めて、いろんな方が使えるようなバスを通したりすることも可能になってくるのではないかと思いました。その点も新しい中学ができるに当たりすごく考慮してほしいと思います。よろしくお願いします。

町民（鰍沢中）：

今日この機会を設けていただきましたこと、感謝申し上げます。ありがとうございます。そして今までのご意見を聞きながら、頭の中で感じたことで、まず改めて確認をさせてください。

新築を決断された町長にとって、先ほどから５０年、１００年とおっしゃっていましたが、５０年くらい持たせるものというお言葉も伺いましたが、イメージ的にはどのくらいをお考えになって、新築の校舎と考えていらっしゃるでしょうか。

町長：

最近の建物は鉄筋コンクリートとかは５０年くらいですから、そのくらいのスパンを考えながら、新築を判断したということです。

もっと言えば、上手に使いながら、メンテナンスすれば、建物は長持ちしていくということなので、できるだけ大切に、長持ちするように持続可能な建物ということで考えていきたいと思っています。

町民（鰍沢中）：

その中でこれから世の中がどのように１０年、２０年というスパンで変わっていくのか想像がつかないくらい混沌として、変動が大きいのですが、この町の将来像というところを全体的にとらえながら、先ほどからおっしゃっていただいている未来を担う子どもさんたちの育ての場、教育の場としての環境設定を色々と考えてくださっていることと思いますが、先ほど質問された方が人口の統計等の予想の話も出ましたので、そういうことも考えながら、これからいまいる子どもさんたちが、違う新しい世代の方や世帯の方がこの町に、移住なり、この町を選んで住んでいただいて、新しい校舎がいい、いいよね、あの校舎に子どもができたら通わせたいねとか、そう思ってもらえるように住民が増えていく。今はまだ子どもが減って、超高齢化率が増えていってしまうような統計になっていますが、新しい校舎にそういった新しい住人の家族が通えるような、そういうイメージも抱いていただくためには、今のアンケートには先ほど来から、当時者世代さんだったり、無作為の抽出だったようですが、ご意見にもあったようなこれから学校を目指していく保育園児さん、小学校生のみなさん方にぜひご意見聞いたり、保護者の方にもご意見聞いていただき、例えばこれは本当に雑駁な提案ですが、子供たちの創造性ってすごいと思うんですよね。だから例えば、自分が通いたい学校ってどんな学校？みたいに、保育園や小学校の中で何気ない会話の中で絵をかいてもらうということも、一つのこれからの適正というのも、先ほどのお話ですと、あと１年か２年の中で決定していかなければならないのであれば、そういう方々にもぜひ意見を聞いていただけるような進め方も切望したいと思います。これからも富士川町に住んでいってもらいたい。子どもが学校に入る中学、高校のときに転居してしまうことがないような、そういう収穫となるような他の町から

良いねと言ってもらえるようなものにしていくため、これからの１年２年のところへの提案とさせていただきました。

そして、更にもう一つ場所の件ですが、これに関しても先ほど来からお話を伺っていますと、ほかの町の様々な行政の計画の中で、町民体育館の建設等含めて、ほかの建物の場所と建設の規模をどんなものを考えているのかということを、総合的に考えて、各みなさんがおっしゃっていた新築の間の代替地のこと、完成してからの駐車場のこと、学校のこと、小学校のことだけじゃなくて、町民体育館っていまどんな風に考えているのかな、どのくらいの規模っていうことも考えて町民にはご提示いただいた方が、歳をとっていく私たちにとっては、逆に町民みんなも使える場を全体的に考えて、小学校等も世代を超えて交流できるような場として使えるようにするにはどのくらいの規模が必要なのかとか、並行してご提示いただけたらと思います。いかがでしょうか。

町　長：

様々なご提案をいただきました。ありがとうございました。

人口減少の社会の中で、この地域に住んでいる方々がいいねと言っていただけるような新校舎。そしてやはり、地域にあった建物、コンセプトにあった建物、そして何より皆さんの声が集約されたような建物ということ、それを建物の設計段階で様々な声をきくような仕掛けもしていけたらな、と思っているところです。人口減少社会の中で、でも我々は国の統計どおりに進ませるわけにはいかないのです。それにあらがって行かなければならない。だからこそ、夢のある新しい校舎の建設をしていきたいと。夢のある地域づくりをしていきたいと。ここに住んでいる人が住んでよかったと思ってくれるような、そういう町にしていきたいと思っています。

また、体育館をどう考えているのかということです。実は過去に、平成２８年くらいでしたか、７大事業という発表がありました。その最後の事業が、まだ手を付けていない体育館、３５億ということです。実は中学校統合はその７大事業に含まれていません。ですから、そこの予算をしっかりと置き換えて、中学校統合を１つの事業として充てる。ですから、極端な話、体育館議論はゼロベースです。やるかやらないかということも含めて、ゼロから積み上げいきたい。もし可能であれば、財政的な部分、町民の思いという部分があって、そこが許されるということであれば、体育館も造っていきたい。ですから、順番が逆なのです。子どもたちの教育環境をまずは事業の１つとして捉えたと、ご理解いただきたいです。

町民（天神中條区）：

質問です。増穂商業高校の跡地はどこの持ち物ですか。先に説明があったらすみません。

事務局：

いまの増穂商業高校の跡地につきましては、山梨県の所有となっています。

町民（天神中條区）：

もし増穂商業高校の跡地となったら、県から払い下げてもらってからの話ということですよね。分かりました。ありがとうございました。

事務局：ご意見はよろしいですか。

町民（天神中條区）：

それがずっとわからなかったもので。まるでもう町の所有かのように話が進んでいるので。

事務局：

先ほどの増穂商業の跡地の経過です。以前にお話を出した場もありましたが、昨年度、令和５年４月に増穂商業高校の跡地に新中学校をということで動いておりました。

その中で、県と協議を進める中で、土地についてはどういった形で譲渡してもらえるのかなどいくつかの話を出す中で、基本協定という形でおおまかな話が進んでいけば富士川町に譲渡します、という基本的な協定はいま結ばれています。ただ、昨年度この話をいったん止めまして、今日に至るまでみなさんの意見を聞く中で、この協定はちょっと待っていただいているような状況です。今後これで１１月４日に候補地が決まれば、また県との協議を再開していく、そういった形で考えております。

町民（長澤区）：

さきほど人口がどんどん減っていくという話をしましたが、保育園の説明に行ったときに保護者の方がすごくうちの町は手厚く保護をしてくれていると。子どもたちに対して。いい町なんですという発言がありました。そのとき私が町の方にそれだけ手厚く援助をしているなら、もっと外に発信をして富士川町という町は子どもたちにこれだけ手厚く援助しているということをもっと広報して、もっと外から入れ込む。うちの町はすごくいいと思います。スーパーはある、ドラッグストアはある。飲食店は固まっている。車であれば遠いところであれば１０分、１５分、歩いたらすぐ着く。非常にいい環境です。それをもっと外に対して宣伝して、外から人を引き込む。それを積極的にしていただきたいのです。いまはどんどん若い人が外に行ってしまい、長澤区もお年寄りの二人世帯、あるいは一人世帯がどんどん増えています。若い人が外に出ていってしまっている。それだけ子どもに手厚くしているのに、なぜ外へ出ていってしまうのか。そこが問題です。

それを町で、各課で、みんなで。それは町に事業を統括するようなところがないからダ

メだと思います。総括的に事業を検討して、優先順位を付けて、これはする、緊急ではないものはしない、と。そういう総合政策課というところを設けて、町を総合的に政策するという方向を、ぜひ見出だしてもらって外へどんどん宣伝をしてもらいたい。いい町だ、ということを。ぜひそれをお願いしたい。

町民（青柳町区）：

以前もこの対話集会で話をさせていただきましたが、私は増穂中学校の敷地とすることに賛成です。いまある体育館２つ、そして校舎の中の教室の数。全てにおいて統合したとしても満たされているベースだと思っています。

例えば令和５年、合併推進債、いろいろあると思いますが、あそこをリニューアルオープンということで校舎をきれいにしたり、体育館のどちらか古い方をリフォームしたりして色々する中で、予算的に町への負担が少ない。一から造りあげるという町長の考え方もとても素晴らしいですが。前は１０年間使って商業をまた造り直すというかなりムダ金が出るだろうという想定されるものよりは、はるかにいいと思います。しかし、鰍沢地区とか遠くの方々が、いま小中学生は荷物がすごく重いです。成長期にあれだけ重たい荷物を持たせるのは、本当は良くないと思っていますが、私たちのときはロッカーとかに置いたのですが、いまは置けないみたいです。そう考えると、バスをある意味タクシーと考えると、迎えに来ていただいて、送ってくれるなんて、遠くの方々はある意味最高の設えを造っていただけます。近くの方は、大変だけどその分距離は近いので、重たい荷物もあるかもしれませんが。あまりマイナスに考えず、プラスに考えてもらって、お金も使わず未来の子どもたちの予算もどんどん減っていきます。人口は絶対減っていきます。確かにプラスにしたいのですが、人口減少はもう止められません。それに対して比率とすれば、子どもの数が減り、段階の世代の人たちが増える。あとはどこの町に住むか、町からの取り合いだと思います。その中で未来への負担を減らす、どうすれば町に一番負担がないかと考えたときに、今の校舎をきれいにして使う。増穂商業は確かに中間かもしれませんが、中間だからいいという考えはナンセンスだと思います。だって、迎えにきてくれるのですから。そう思えば同じだというのが、私の考えです。いまあるものを上手に使って、きれいにして、長年持つように耐震強度を増してやっていくということも、一つの意見として言わせていただきます。

町民（小林区）：

私自身はいろんな話を聞いていて、正直最初は増穂商業高校の跡地が良いと思っていました。町の中心なので鰍沢地区の負担が少ないと思い、一番いいと思っていたのですが、いろんな話でゼロベースとおっしゃっていましたが、体育館の問題など総合的に考えると、一長一短本当にあるというところで、私自身とても勉強になりました。ただ最終的には教育委員会の方々で決定していただいて、私はまだ小さい子がいるので、この中学校統

合問題は自分の身になって返ってくるものですが、最終的にはその決定に従います。たくさん議論を重ねているので、いいものができるのではないかと思います。

一つだけ、もう決定しているということでしたが、増穂商業高校の跡地にしても、増穂中学校にしても、新しい校舎を造っていただきたい。未来の子どものためということもありますが、人口減少を食い止める、町おこしにもつながるのではないかと。ぜひ新しい校舎を建てていただいて、子どもたちが笑顔で通えるように考えていただきたいと思います。ぜひよろしくお願いします。

事務局：

増穂商業高校の跡地の意見が若干少ない形となっていますが、ご意見等ありませんか。また分からないことがあれば質問を含めていただいても構いません。

ほかにご意見等ないようでしたら、本日いただいたご意見等を踏まえまして、新たな中学校の方針について検討を進め、１１月４日に方針を決定して町民のみなさまにお知らせしていきます。

アンケート結果の詳細につきましては、町の広報誌やホームページでお知らせしていきます。またさらに教育委員会の事務局ではこのアンケート結果を書面にて用意してありますので、ご利用ください。

全体を通しまして意見等ないようでしたら、ただいまをもちまして、本日の対話集会を終了させていただきます。

ご参加いただき、ありがとうございました。